HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	大雪山国立公園におけるインタープリテーションとリスクコミュニケーションに関する事例研究 [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	FANG, Chongbo
Citation	北海道大学. 博士(環境科学) 甲第14730号
Issue Date	2021-12-24
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/84037
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	FANG_Chongbo_review.pdf (審査の要旨)

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学 位 論 文 審 査 の 要 旨

博士（環境科学）　　氏 名 方 チュウ 博

審査委員　主査　教 授　山 中 康 裕
　　副査　教 授　渡 邉 悌 二
　　副査　准教授　藤 井 賢 彦
　　副査　准教授　愛 甲 哲 也
　　（大学院農学研究院）

学 位 論 文 題 名

大雪山国立公園における
インタープリテーションとリスクコミュニケーションに関する事例研究
(A case study of interpretation and risk communication
in Daisetsuzan National Park)

大雪山国立公園旭岳は，2000m級の山岳でありながら，ロープウェイを利用して，本州ならアクセスし難い高山環境に訪問することができる。そのため，高山植物の脆弱性や高山環境のリスクを知らずに訪れる人が多い。そのような訪問者に対して，ロープウェイが山頂駅に到着した直後に，望ましいマナーや安全上の注意事項を約３分間で解説することが行われている（本研究ではこれを「到着説明」と呼ぶことにする）。また，旭岳には難易度と環境保全に基づいた登山道の区分「大雪山グレード」が定められている。インタープリテーションとリスクコミュニケーションは，人間と自然との調和を図るために，人間活動が自然環境に与える負の影響，および，自然環境による人間活動への潜在的危険などを軽減するコミュニケーションである。本研究は，「到着説明」，および，訪問者の意識と行動を調査し，インタープリテーションとリスクコミュニケーションの視点から，旭岳に行われる環境保全や安全対策について，大雪山グレードの利用などを提言する。

第2章では，参与観察，業務日誌に対する文献調査，訪問者に対するアンケート，および，公園管理者へのインタビューを組み合わせて，インタープリテーション戦略として到着説明を評価した。先行研究で示唆されているインタープリテーション戦略の3つの評価，(1) 訪問者の参加率と参加保持時間，(2) 訪問者の情報内容の記憶保持，(3) 訪問者の情報の魅力と有用性に関する認識，に基づいてアンケートを作成し，有効回答238件を得た。その結果、旭岳の到着説明に対する，訪問者参加率，参加保持時間と解説内容の記憶保持率が高かったこと、すなわち，到着説明は，大多数の訪問者に確実に公園の情報を伝えていたことが分かった。到着説明で説明された内容についても，その魅力や実用性についても肯定的な意見が多く，特に散策・登山中の注意事項や当日の登山道状況と天気状況に関する情報は高く評価されてい

た。また，実施者へのインタビューや業務日誌から，この到着説明が始まって以降，訪問者のマナーが向上したことが分かった。これらのことより、到着説明は、優れたインタープリテーション戦略になっていることが明らかになった。なお、到着説明にも，3分間の時間制限があるため情報内容の具体性が欠けていること，他のインタープリテーション戦略との連携が弱いこと，訪問者と双方向の交流が少ないことなどの課題がある。

第3章では，訪問者に対するインタビューおよびソーシャルメディアに投稿されたコメントの内容分析を組み合わせて，リスクコミュニケーションの視点から，旭岳における現状を明らかにした。先行研究で示唆されている山岳環境におけるリスクの分類を利用して，リスクに関するインタビュー14件およびコメント90件に注目して、旭岳における訪問者の認識や経験を，登山道の標識問題，低温による危険性，天候の急変による危険性，および登山道路面の危険箇所に整理した。ウェブ情報が天候急変や低温など山岳環境の具体的な危険性を訪問者に伝えていないこと，訪問者が登山道の標識に関する設置場所や内容が分かりにくいことにより登山道の難易度の違いに気づきにくいこと，外国人訪問者が英語の情報不足により装備の準備に悩んでいることなど，具体的な課題が明らかになった。ソーシャルメディアに対する対応などの課題について，調査に基づいた提案を行った。

第4章では，第2章と第3章の議論を踏まえて，旭岳の訪問者を対象にしたインタープリテーションとリスクコミュニケーションの改善について，以下の四つのことを提言した。一つ目は情報を適切なタイミングで提供すること。二つ目は大雪山グレードを利用した，インタープリテーションやリスクコミュニケーションを組み立てること。三つ目は到着説明を継続すること。第2章の対象とした到着説明は，観光を目的とする訪問者の行動を指導する旭岳におけるインタープリテーションの要であり，ツアーガイドなど国立公園の持続可能な観光利用に貢献できる人材の育成にも効果がある。四つ目はSNSなど新しいコミュニケーションへの適応をすること。第3章の対象としたSNS上のコメントには誤解を招きやすい情報が存在し，管理者は公式サイトで信頼性の高い情報を発信するだけでなく，そのような情報にも対応することが必要となる。今後，旭岳におけるインタープリテーションとリスクコミュニケーションを，他にも行われている類似した事例と比較していくことが，旭岳の方針を他の地域でも普及させるためには欠かせないだろう。

本学位論文は、大雪山旭岳で現場の経験に基づいて行われてきた環境保全活動を、インタープリテーションやリスクコミュニケーションという学術的評価をしたものである。これまでの学術的な知見を比較することにより、より優れた環境保全活動への提言は、学術的知見を実践現場に還元することにつながる研究となっている。特に、到着説明は、これまで議論されてきた対人的・非対人的の枠組みとは異なり、また、事前に説明するユニークなインタープリテーションとして位置づけることができて、学術的知見の発展に役立つことが期待される。

審査委員一同は，これらの成果を高く評価し，また研究者として誠実かつ熱心であり，大学院博士課程における研鑽や修得単位などもあわせ，申請者が博士(環境科学)の学位を受けるのに充分な資格を有するものと判定した。